

令和元年度
藤枝市教育委員会事業評価報告書

令和元年 1 1 月
藤枝市教育委員会

－ 目 次 －

事業評価の趣旨	P 1
令和元年度事業評価	P 1
藤枝市子ども未来応援会議 教育委員会事業評価部会員名簿 ...	P 2
事業評価対象事業一覧	P 3
各事業の評価報告	P 4
教育委員の活動状況報告	P 1 4

1 事業評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育委員会が行う事務の管理及び執行について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくものです。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】（抜粋）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（・・・中略・・・）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 令和元年度事業評価

市が平成30年度の重点戦略事業として位置付けた5事業、及び教育委員会が重点事業として選定した4事業の計9事業について、教育環境の充実を総合的に推進することを目的に、各方面の有識者からなる「藤枝市子ども未来応援会議」に「教育委員会事業評価部会」を設け、必要性、有効性等の観点から事業評価を実施しました。

事業評価部会

実施日：令和元年7月31日（水）

場 所：藤枝市役所特別会議室

藤枝市子ども未来応援会議 教育委員会事業評価部会

	氏名	所属団体等
部会長	杉山 浩一	校長会
委員	松永 由弥子	静岡産業大学
委員	大橋 早苗	県立藤枝特別支援学校
委員	清水 和義	清水園芸
委員	中川 浩実	PTA連絡協議会

事業評価対象事業一覧

No.	事業名	担当課
1	学校 I C T 環境整備事業	教育政策課
2	小中一貫教育推進事業	〃
3	英語指導助手（A L T）の活用	〃
4	小学校トイレ洋式化の推進	〃
5	特別支援教育強化事業	〃
6	教員の働き方改革支援事業	〃
7	学校給食の実施に伴い発生する廃棄物の 3 R 促進モデル事業	学校給食課
8	科学教育推進事業	生涯学習課
9	子ども読書活動推進事業	図書課

各事業の評価報告

事業名	学校 I C T 環境整備事業			所管課名	教育政策課	事業No.	1
事業の目的及び概要	新学習指導要領が掲げる、情報モラルを含む情報活用能力の育成に対応するため、コンピューターや情報通信ネットワークなどを日常的・効果的に活用するために必要な環境を整えるとともに、学習活動の充実を図る。						
事業費	H30 決算	104,404	千円	財源内訳	[市費]	30,571	千円
					[ふるさと応援基金]	73,833	
事業内容	<p>平成 29 年度に、モデル校 7 校（小学校 5 校・中学校 2 校）を指定して「児童生徒用タブレット」「電子黒板」など、I C T 教育機器を整備した。このモデル校で大きな成果をあげることができたため、平成 30 年度は、市内全小中学校の小学校 1 年生から中学校 3 年生までに対象を広げ事業を拡充した。</p> <p>【 学校 I C T 環境整備 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型 P C 931 台 ・電子黒板 435 台 ・書画カメラ 435 台 ・ソフトウェア一式（学習支援ソフト・特別支援学級用学習ソフト・画像編集ソフト等） ・デジタル教科書 小学校 算数・理科・国語・社会 中学校 国語・社会・英語 ・無線アクセスポイント（普通教室・理科室・特別支援学級） <p>【 P C 教室用パソコン 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型 P C 883 台 ・ソフトウェア一式（学習支援ソフト・オフィスソフト等） 						
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは「授業がわかりやすかった」、「楽しかった」という意見が多く、I C T による児童生徒の学習意欲の向上及び学習の質の向上に寄与している。 ・I C T 支援員による授業の補助や研修、場面に応じた効果的な活用方法の助言により、教職員の I C T 指導力が向上している。 ・I C T 機器の利活用によるペーパーレス化や教材準備作業の短縮など、教員の多忙解消につながっている。 ・P C 教室のパソコンを、教室でも利用できるようにタブレット型端末に更新し、利用頻度の向上を図った。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度はモデル校 7 校のみ I C T 教育機器を整備していたが、平成 30 年度は市内全小中学校の小学校 1 年生から中学校 3 年生まで対象を広げたことで、全学校に平等に行き渡り公平性がある。 ・教員やどの学年の子ども達もよく I C T 機器を利用している。I C T 機器を利用すると子ども達の授業への集中力が増し、理解のしやすさにも繋がるため大変有効である。 ・タブレット P C は台数に限りがあるため、小規模校では比較的自由に使えるが、大規模校はクラス数が多く使いたいときに使えない時がある。公平性という点で、機器の追加を検討してもらいたい。 ・タブレット上で意見をまとめて全員の意見を一度に教室前面に提示できるなど、色々な使い道があり、教員も授業方法に広がりができ大変有効である。 	

今後の方向性	・教員や学校間で、I C T 指導力・取り組みに差異が生じないよう、I C T 支援員を活用し、学習活動の充実を図っていく。
--------	--

事業名	小中一貫教育推進事業			所管課名	教育政策課	事業No.	2
事業の目的及び概要	藤枝市小中一貫教育推進計画に基づき、本市が目指す「未来を生き抜く力の育成」のために、義務教育を9年間の連続した期間として捉え、一人ひとりの健やかな成長を支援するとともに、計画的・継続的に子どもたちを育成する。 また、家庭・地域・学校等が協働して取り組む「地域とともにある学校づくり」を推進し、地域総ぐるみで子どもの育ちや特色ある学校づくりを支援する。						
事業費	H30 決算	7,329	千円	財源内訳	[市費]	7,329	千円
事業内容	<p>【 瀬戸谷地区での小中一貫教育先行実施 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学5・6年生が週1回中学校へ出向き中学校教員による授業（外国語、書写）を受けたり、中学校教員が小学校に出向き乗り入れ授業（小6理科、小3外国語活動、小3・5・6音楽、小5・6保健体育）を実施したほか、小学校時代の担任が中学校1年生の授業支援を行い、中学校の環境に慣れていける環境づくりを進めるなど、瀬戸谷地区小中一貫教育推進計画の着実な展開を図った。 <p>【 他地区での取組 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行実施している瀬戸谷地区をモデルとして準備が整った地区から順次、地区推進協議会を立ち上げ、地区推進計画の策定に向けた協議を進めるとともに、学校・家庭・地域が協働して地域ぐるみで取り組む教育の実現に向け、コミュニティ・スクール化に向けた地域の合意形成を図った。 						
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸谷地区では、より深い指導内容を体験することで、学習意欲や理解度の高まりが感じられるようになり、中学校への進学にあたっては過度な緊張感もなくスムーズに移行でき、安定した中学校生活を送っている。また、教職員は児童生徒の発達段階への理解が深まるとともに、小中学校の教職員間で指導に対する一体感や意識改革が大いに進み、指導力の向上が図られるなど、改めて小中一貫教育の有効性を確認することができた。 ・大洲地区では平成30年2月に、広幡地区では8月に地区協議会を立ち上げ議論を重ね、それぞれ地区推進計画を完成させた。令和元年度からの小中一貫教育実施とあわせて、先行実施の瀬戸谷地区も含め、コミュニティ・スクールの導入に向け、地域の合意形成を図り準備を進めた。 ・その他の地区においても、準備が整った地区から順次協議会を立ち上げており、西益津地区では7月、岡部地区では8月、葉梨地区では10月に地区推進協議会を立ち上げ、地区推進計画の策定に向け議論を開始した。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な教育ができ、それぞれの能力や個性を把握しやすいためフォローがしやすく有効である。 ・枠にとらわれず小・中学校や地域と交流できるので子ども達の精神的な発達にも繋がり有効である。 ・小学校から中学校へあがる時に、子ども達は不安を抱えているため、環境に慣れることは有効。 ・教員が、小学校1年生から中学校3年生までの9年間の成長を考えながら、小中学校のお互いの良いところを取り入れた取り組みが考えられるため有効である。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・2小1中や3小1中地区、行政区が混在する中学校区、または児童生徒数の増加に伴う学区を含めた諸課題など、それぞれの地域課題についてしっかりと検討を重ね、各中学校区のコンセンサスを得ながら地区計画の策定を推進していく。
--------	--

事業名	英語指導助手（ALT）の活用			所管課名	教育政策課	事業No.	3
事業の目的及び概要	令和2年度に完全実施される新学習指導要領（小学校3・4年生の外国語活動、5・6年生の英語）に向け、英語指導助手（ALT）の増員を図った。 JETプログラムによるALTを3名増員して8名とし、FCA1名、地域ALT8名と合わせ、ALT合計17名の体制を築いた。						
事業費	H30 決算	29,371	千円	財源内訳	〔市費〕	29,371	千円
事業内容	<p>令和2年度に新学習指導要領が完全実施となるが、平成30年度は新学習指導要領の移行措置期間と位置づけられており、小学校3・4年生は年間15時間（週0.5時間）の外国語活動を、また5・6年生は年間50時間（週1.5時間）の外国語活動を行うこととされた。</p> <p>これに伴い新たに全小学校の3・4年生の授業にも積極的にALTを配置し、日本人教師とのチームティーチングによる、児童生徒のコミュニケーション力向上に向けた、英語を体感できる授業を実施し、国際感覚を持った英語運用能力を育成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JETプログラム派遣ALT8人、地域ALT8人、計16人をFCA(Fujieda City Advisor)がとりまとめ、市内小学校17校及び中学校10校に配置した。 ・小学校5・6年生及び中学校1年生は週1時間、小学校3・4年生及び中学校2・3年生は、隔週1時間、ALTが助手をする英語の授業を受けた。 ・小学校から中学校への接続をスムーズにするため、同一中学校区の小学校6年生と中学校1年生には、同じALTを配置した。 						
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のコミュニケーションを図ろうとする意欲が向上した。 ・児童生徒の異文化理解、外国（語）への興味関心が高まった。 ・楽しみながら自然に英語に親しむ児童生徒が増えた。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領が実施されるので必要性は十分ある。 ・ALTから生きた英語を学べるので非常に有効。 ・小学校6年生は週2回の英語を楽しみながら取り組んでいる。抵抗なく英語に入っていると感じており、本格的な英語の授業が始まるにあたって、円滑に進んでいくことが期待できる。 ・ALTの先生は雰囲気作りが上手で子ども達をうまくやる気にさせていると感じている。 ・藤枝市は周辺の市に比べてALTの配置が厚く、生の英語に触れる機会がたくさんあり、子どもたちにとって非常に有効な施策である。 ・小学校では現在会話が中心の授業だが、来年度以降、英語が教科化されるので教科書を上手に活用した授業をやっていかなければならないことが課題であり、研修が必要だと感じる。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度から、小学校5・6年生で年70時間、小学校3・4年生では年35時間の外国語活動の授業が行われることから、小学校3年生から中学校3年生のどの学年にも週1時間のALT配置を目指し、ALTの増員を検討していく。
--------	--

事業名	小学校トイレ洋式化の推進		所管課名	教育政策課	事業No.	4
事業の目的及び概要	児童生徒の学校生活の環境改善を図るため、学校トイレを和式から洋式便器への更新を推進する。特に小学校1年生用のトイレを最優先して計画的に洋式化を進め、子どもに親しまれる衛生的なトイレ環境づくりを図る。					
事業費	H30 決算	29,506 (設計費: 2,268) (工事費: 27,238)	千円	財源内訳	[市費] [国県補助金] [起債]	2,460 9,146 17,900 千円
事業内容	<p>平成27年度より、改修計画に基づき小学校1年生用トイレの洋式化を推進してきたが、計画より1年前倒しの平成30年度をもって小学校1年生用トイレの洋式化が完了した。</p> <p>【 改修工事 】 実施校：葉梨小、藤岡小、青島北小 概要：上記3校の1年生用トイレ便器更新 （和式24基、洋式6基→洋式30基に更新、内1基は多目的トイレ） 床の乾式化、トイレブース、小便器ほか衛生器具の更新、その他内装改修を実施 工期：平成30年5月31日～9月28日</p> <p>【 設計業務委託 】 概要：次年度実施予定3校のトイレ洋式化等改修工事設計業務 工期：平成30年6月7日～10月5日</p>					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の向上とともに、従来の「暗い・汚い・臭い」といったイメージが払拭され、明るく清潔なトイレ環境に改善された。児童にも大変好評であり、トイレを大切に使うようになった。 					

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちはトイレに暗い・汚いというイメージを持っており、それを払拭できる有効な事業である。 ・改修されたトイレは色もきれいで、学校のトイレのイメージが変わった。 ・衛生面からも洋式トイレが適していて、災害時に誰でも使えるようなトイレという観点からも必要性がある。 ・トイレがきれいになったことで、このままきれいに使っていこうという、子どもたちの情操面でもよい効果がある。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に3校の改修を実施し、小学校1年生用トイレについては、洋式化が完了したが、学校全体における洋式便器の数はまだ十分ではない。また、施設の老朽化も進んでいる為、小学校において引き続き、各フロアに1か所、洋式化に向けてトイレを整備していく。
--------	--

事業名	特別支援教育強化事業			所管課名	教育政策課	事業No.	5
事業の目的及び概要	特別な支援を要する子どもは年々増加傾向にあり、また、子どもを取り巻く状況の複雑化及び子どもや保護者の個々のニーズも多様化しており、特別支援教育全体の支援体制について更なる体制強化が必要となっているため、「特別支援教育士」の資格を有する人材を『特別支援教育アドバイザー』として教育委員会に配置した。						
事業費	H30 決算	3,003	千円	財源内訳	[市費]	3,003	千円
事業内容	<p>【 特別支援教育の体制整備 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の就学支援体制充実のための専門的見地からアドバイスをを行った。 ・発達通級指導教室、言語通級指導教室、中学生のための支援教室（する～ばす）の体制を見直した。（教室増設、支援員・指導員の勤務体制） <p>【 特別支援教育に関する研修会 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員、支援員、若手教員を対象とした年8回の研修を実施した。（特別な支援を必要とする児童生徒への支援方法、授業づくりへの指導・助言等） <p>【 相談窓口の開設 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育園を対象に、子どもの支援に関するアドバイスや就学支援を進めるに当たっての相談を実施した。 ・就学に関して悩みや疑問を持つ保護者との面談を行った。 						
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・増え続ける就学支援の審議数に対応するため、事前の情報収集や様式の改定などを行ったことで就学支援委員会における審議に時間をかけることができた。 ・発達通級指導教室サテライト校を1教室新設するとともに、中学生のための支援教室（する～ばす）の市内全中学校への拡大準備を進めることで、支援環境の拡充につなげた。 ・研修会や丁寧な相談により、特別支援教育に関する啓発につながった。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の研修会の開催、通級指導教室や中学生のための支援教室など、環境面で支援を充実させていて有効性が高く、今後ますます必要になる事業である。 ・インクルーシブ教育を地域の中で進め、子どもの成長につなげてほしい。 ・特別な支援を要する子どもが増加しており、通常学級でも特別支援学級でも経験がない教員が多いことから、若手の教員に対して研修を行う必要性を十分感じられる。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に対する各学校の理解が浸透してきているので、さらに時代の流れに対応したインクルーシブ教育を進めるための支援体制を構築していく。 ・「子どもの笑顔につながる特別支援教育 笑顔でつながる特別支援教育」を目指して、特別支援学級や通級指導教室の新設・増設等も含め、藤枝市ならではの特別支援教育を充実させていく。
--------	---

事業名	教員の働き方改革支援事業			所管課名	教育政策課	事業No.	6
事業の目的及び概要	学校の多忙化の解消や、教職員の長時間労働の削減に向けて、教員が授業に専念できる環境の整備と、教員自身の働き方の見直しの両面から業務改善を図り、教員が子どもと向き合える時間の確保と教育の質の向上につなげる。						
事業費	H30 決算	1,820	千円	財源内訳	[市費]	1,162	千円
					[県補助金]	658	
事業内容	<p>【 学校多忙化解消委員会、部活動検討委員会の開催 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校多忙化解消委員会 2回（11/26、1/28）開催。進捗状況の確認とシンポジウムの内容検討。 部活動検討委員会 2回（12/4、2/5）開催。現状把握と今後の改善の方向性を検討。 <p>【 音声メールシステムの設置 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月より、市内全校での音声メールシステム運用開始。 小学校は 18:00～7:30、中学校は 19:00（11～3月は 18:00）～7:30 音声メール対応。 <p>【 部活動指導員の試験配置 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 8月以降、中学校3校（西益津中:合唱、青島中:野球、高洲中:卓球）に1人ずつ部活動指導員を配置。 <p>【 働き方改革シンポジウムの開催 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員、保護者、地域関係者対象に、生涯学習センターにおいて2月23日に開催。 						
成果	<ul style="list-style-type: none"> 多忙化解消・部活動検討の両委員会からは、働き方改革における基本方針や施策の方向性について提案をいただき、市内全校での働き方改革の推進につながった。 音声メールシステムの設置により、教員からは「本来の業務に集中できる」との声が多く届いている。 指導力に定評のある部活動指導員を配置したことで、技術指導面での負担が軽減された。 シンポジウムは、教員の勤務実態を保護者や地域関係者に理解していただく機会になったとともに、それぞれの立場での教育への参画意識を高めることにもつながった。 						

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> 先生にも充実した生活を送ってもらうことで、子ども達との関係が豊かになればよいと思うため、この事業は必要で有効である。 先生の仕事を減らし子ども達に集中してもらうために、音声メールシステムの導入や部活動指導員の配置は大変有効である。 シンポジウムは先生方の状況を理解してもらう、効果的でよい機会であった。 シンポジウムに保護者の参加がもっと多ければ、さらに効果的な事業であった。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 本市がめざす教員の働き方改革の趣旨や取組について、一層の周知・啓発を図る。 働き方改革関連法が定める超過勤務時間の上限等を遵守するため、教職員の働き方改革をさらに進めていく。
--------	--

事業名	学校給食の実施に伴い発生する廃棄物の3R促進モデル事業	所管課名	学校給食課	事業No.	7
事業の目的及び概要	<p>食品ロス削減国民運動の一環として、学校給食における食品廃棄物等について、再生利用（リサイクル）、発生抑制（リデュース）、再利用（リユース）に取組み、食育・環境教育の観点から学習教材としてのモデル事業を実施する。</p> <p>また、学校給食における食品廃棄物を抑制することを目的として、3R体験ツアーなどの取組みを通して食品ロスの削減について取り組む。</p>				
事業費	H30 決算	(環境政策課予算)	千円	財源内訳	千円
				[市費]	—
				[国県補助金]	—
事業内容	<p>【 農業体験 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米作りや給食残飯堆肥を使用した野菜の栽培により食べ物の有り難さを知る体験。 <p>【 動画教材制作 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食材の生産、流通から給食として配膳されるまでや、残食が堆肥化されるまでを追った動画を作成し食育等の授業で活用 <p>【 クリアファイル配布 】</p> <ul style="list-style-type: none"> クリアファイルに食品ロスの知識を掲載し、それを使用して給食時の食育指導を実施 <p>【 食べきり日誌づくり 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食べきりに工夫したことを記載した「食べきり日誌」を作成し、壁新聞にして“もったいない市民のつどい”などで展示 <p>【 3R体験ツアー 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜収穫、調理、食材を使い切る美食、堆肥化施設の見学ツアー 				
成果	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒に、食べ物が生産されてから食卓に上がるまで、又は、食べ残しがごみとして処分されるまでといった一連の流れを環境問題として「気づき」「学び」「行動」してもらうことで、藤枝型の持続可能な社会を形成する人材として育成できた。 「給食を残すことがありますか」という児童へのアンケートの答えについて、事業開始前の29.8%が、この事業を通し7.4ポイント減少し22.4%となった。 残食率が、西益津小で11月の4.5%から0.3ポイント減少し1月は4.2%へ、大洲小で11月の5.8%から2.3ポイント減少し3.5%となった。 				

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> 今の子ども達は、食べるものを残さない、大切にするという気持ちが薄くなってきているため、食べ物の大切さを小さいうちから育むのは大切であり必要な事業である。 残さないように取り組んだ成果が出ているので有効であり、全体の学校へと広めてほしい。 体験することで、本人が考えるきっかけ作りとなるため、この体験は必要で有効な取り組みだといえる。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 環境省の3R促進モデル事業として市内2校（西益津小、大洲小）で実施した事業であったが、今後は、市内の全ての児童生徒を対象とし、動画教材を使用した食品ロス対策授業や、3R体験ツアーによる野菜収穫や調理体験により、食品ロスの削減について積極的に取り組む児童生徒の育成に努めていく。
--------	--

事業名	科学教育推進事業	所管課名	生涯学習課	事業No.	8
事業の目的及び概要	宇宙や科学に興味を持つ子どものすそ野を広げるため、大学との連携やJAXAとの連携協定を活用し、科学教育の推進を図る。				
事業費	H30 決算	4,478 千円	財源内訳	〔市費〕	4,478 千円
事業内容	<p>【 フジエダ☆宇宙キッズラボ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：7/28（土）9：30～15：30 ・場 所：生涯学習センター ・対 象：主に小学生以上 ・内 容：宇宙空間をテーマにした巨大迷路や、宇宙旅行映像を体感する「3Dシミュレーター」、静岡市るくるによるサイエンスショー、ディスカバリーパーク焼津による星座早見ペーパークラフト、宇宙服で記念撮影など、「宇宙」を入り口に、理科や科学に興味を持つ子どものすそ野を広げるための体感イベント ・参加者：1,560名 <p>【 コズミックカレッジ 】 全5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：7/21、7/28、9/1、11/10、1/19 ・対 象：小学1・2年生とその保護者 ・内 容：JAXA科学教育プログラムを活用して、知識の習得に偏らず、実験・体験によって感動を与えることを重視した、親子科学体験教室 ・参加者：延べ237名 <p>【 わくわく科学教室 】 全5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：6/30、7/28、10/6、12/8、1/26 ・対 象：小学3・4年生 ・内 容：静岡大学教育学部と連携して、大学生が企画したロケットづくりやミニ地球儀づくりなど、科学の楽しさや面白さを知ることが出来る科学体験教室 ・参加者：延べ275名 <p>【 FCSS（藤枝宇宙科学教室） 】 全7回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：7/14、8/1、9/2、10/20、12/1、12/27、2/2 ・対 象：小学5・6年生 ・内 容：静岡理工科大学と連携して、ロケット工学や朝比奈大龍勢のしくみを学び、JAXAや航空関連施設の見学を、年間を通して行った ・参加者：27名（年間通し） 				
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・科学体感イベントは、多くの来場者があり、アンケートから「楽しかった」との意見が多く、子どもたちが目を輝かせて参加し、事業の目的を果すことが出来た。 ・科学教室では、親子で協力しながら工夫したり、専門的な実験や観察を行ったり、大学生から学ぶ機会もあり、宇宙関連施設見学など普段できない貴重な体験から、子どもたちの探求心を育むことが出来た。 				

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> ・学年に合ったそれぞれのプランに沿った事業が用意されており、効果的である。 ・教室間につながりを持たせていく考えも有効性が高い。 ・学校現場で教えるには難しい部分を、大学の先生や静大の学生などを活用した取り組みは、学校にはない良さが出ていて効果的である。 ・昨年コスモキッズラボに参加し、間近で探究心を感じることができ、親子で貴重な時間を過ごせた。科学は伝えにくいものだが、体験の場があると伝わりやすいため、有効性と必要性が高い。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に実施した各事業を1つにまとめ、「科学探求心育成事業」として、それぞれに連携性を持たせ、引き続き、宇宙や科学を切り口に、未来を切り拓く子どもたちを育成するための科学教育を推進していく。
--------	---

事業名	子ども読書活動推進事業	所管課名	図書課	事業No.	9
事業の目的及び概要	藤枝市子ども読書活動推進計画に基づき、すべての子どもがあらゆる機会にあらゆる場所で自主的に読書活動を行うことができるよう、そのための環境整備や読書機会の提供、読書活動の啓発などを積極的に推進する。				
事業費	H30 決算	3,074	千円	財源内訳	〔市費〕 3,074 千円
事業内容	<p>【 よむゾーくん大賞のリニューアル 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年度に引き続き募集期間を拡大して（10/26～1/11）実施するとともに、入選作品集を電子化して多くの人に公開し、実際の読書活動に繋げる取組みを行った。 <p>【 就学時おすすめ本パンフレット（セカンドブック）の配布 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学時健康診断の際に配布するパンフレットの内容を見直すとともに、カラー印刷で作成することで、優良な本をアピールするツールとして活用を図った。 <p>【 そらいろ図書館の実施 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいを持つ子どもたちが気兼ねなく図書館を体験し、読書を楽しむ機会を提供することを目的に、休館日に駅南図書館に招き、図書館職員が行う絵本の読み聞かせや手遊びなどを行った。 				
成果	<p>【 よむゾーくん大賞 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2,452 名からの応募があり、平成 29 年度に比較して 301 名増加した。 <p>【 就学時おすすめ本パンフレット（セカンドブック） 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の小学校に入学するすべての児童に各校を通じて配布し、読書に親しむきっかけ作りができた。 <p>【 そらいろ図書館 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援事業所 2 施設から 5 回来館し、68 名（幼児 45 名、施設職員 23 名）が参加し、館内での読書や絵本の読み聞かせなどを楽しんだ。 				

事業評価部会による評価（必要性、有効性、公平性などの観点から）	
<ul style="list-style-type: none"> よむゾーくん大賞は平成 29 年度に比べ 301 名増加したということだが、継続することでさらに成果が出ることを期待する。 このような事業に取り組むことは本離れに歯止めをかけるため有効であり継続して続けてほしい。 読書は心を豊かにするために必要であり、このような取り組みは大いに賛成、応援したい。 書籍の電子化も進み、実際の本を見る機会も減る中でこのような事業は大変必要である。 成果がすぐ現れないところが残念だが、地道に進めることで本離れが減っていくと思うので今後も継続してほしい。 学校図書司書と繋がりを持つとよい成果が出ると思う。 	

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 学校や読書ボランティアなど様々な組織との連携を強化し、複合的に読書に親しむ環境を構築するとともに、図書館の基礎機能である蔵書を充実させ、利用者の要望に的確に応える体制を整え利用しやすい図書館サービスを提供することで、本市の読書環境の整備を推進していく。
--------	--

教育委員の活動状況報告

教育委員の活動状況報告

1 教育委員会の会議

藤枝市教育委員会では、藤枝市教育委員会会議規則（昭和 31 年教育委員会規則第 2 号）に基づき、月 1 回の定例会と、必要に応じ臨時会を開催しています。

教育委員会の所掌事務は、「当該地方公共団体が処理する教育に関する事務」（法第 21 条）と定められており、その範囲は広範であるため一部の事務は「教育委員会の権限の一部を教育長に委任する規則」により教育長に委任されています。したがって、定例会では教育長に委任できない事務について審議をしています。

平成 30 年度の定例会及び臨時会での審議内容等は以下のとおりです。

【定例会開催回数】	12回	【臨時会開催回数】	2回
【附議件数】	28件	【事業報告件数】	86件

【附議の内容】

No.	案 件	件数
1	教育委員会規則等を制定し、又は改廃すること	5
2	議決を要する議案について市長に意見を申し出ること	7
3	附属機関の委員を任命し、又は委嘱すること	6
4	職員の人事に関すること	2
5	教育に関する一般方針を定めること	8
6	文化財の指定に関すること	0
	計	28

2 総合教育会議

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき総合教育会議を開催し、市長と教育委員会が本市の教育の方向性や施策等について協議しました。

平成30年度には3回の会議を開催し、協議事項等は以下のとおりです。

No.	会 議	開催日	場 所	協議事項等
1	第9回 総合教育会議	平成30年 6月12日	広幡 中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の英語教育について ・英語授業の参観（複数のALTを交えた インターナショナルパーティー）
2	第10回 総合教育会議	平成30年 10月26日	特別 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・藤枝市の社会教育について
3	第11回 総合教育会議	平成31年 1月29日	特別 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時等における児童生徒の安全確保対策について ・学校における働き方改革について

3 その他の教育委員の活動

教育委員は教育行政の更なる推進と円滑なる教育委員会の運営を図るため、委員会における審議とは別に静岡県市町教育委員会連絡協議会が主催する研修会などへの参加や市内小中学校の訪問をはじめ市及び教育委員会各課が主催する行事等の現場視察等を実施し、本市教育委員会の活性化を図るとともに教育委員としての資質の向上や自己研鑽にも務めています。

平成30年度活動状況は、以下のとおりです。

【教育委員の活動内容】

分類	案 件
1 調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> (1) 藤枝市校長会夏季研修会への参加 (2) 指定校の研究発表会への参加 (3) 静岡県市町教育委員会連絡協議会が主催する研修会への参加
2 現場視察	<ul style="list-style-type: none"> (1) 市内小中学校訪問 (2) 市及び教育委員会各課が主催する各種行事へ参加

令和元年度
藤枝市教育委員会事業評価報告書

令和元年11月
藤枝市教育委員会